歳時記

ふるさと探訪

凌霄（のうぜん）の花

凌霄花は、枝先に下向きの鮮やかな橙色の花を咲かせる。大形の花弁は五裂、やや唇状となる。群れ咲く花を見ると夏の終わりを感じる。

揚句は、歌舞伎役者とのうぜんの花を取り合わせた二物衝撃の一句。

のうぜんや歌舞伎役者のへの字口　髙倉　直人

今月の推薦句

青田風浴びてひと日の始まりぬ　小野　恒己

〈青田風〉は夏の季語。植田が青一色になる頃は土用の日ざしも強く、風になびく稲は爽快。その風を浴びて農の一日が始まるというなんと美しく豊かな日々でしょう。

茗荷（みょうが）の子やおら芽を出し摘みとらる　永松左世美

「茗荷の花」は秋の季語ですが「茗荷の子」は夏の季語。蕾のうちに摘んで料理のつまや薬味などに。中七の「やおら芽を出し」で季節感が漂います。

サングラス上野由岐子のサヨナラ打　佐藤　律子

東京五輪女子ソフト予選リーグでの上野選手の活躍は目を見張るものがありました。サングラスもよく似合います。この夏の暑さを吹き飛ばしそうな時事俳句になりました。

雷鳴（らいめい）や雲にあしたを聞いてみる　井上　則子

雷鳴は、一瞬のエネルギー放出で見せる音。昨今のお天気は、急な雨、暴風と落ち着きません。明日の天気は「どうなの？」と聞いてみたくもなりますね。

俳句の基本　順序立てて説明しない

読者俳句

ふるさとの俳人たち　その⑦　駒走　松恵

九重の女芭蕉こと、駒走松恵さんは大正六年六月九日のお生まれ。ご存命なら百四歳。でも、ご逝去が令和元年五月ですから何と百二歳の誕生日を前に天寿を全うされたことになります。百歳を過ぎた頃、次のような句を詠っていますが、現代俳句の重鎮岸本マチ子さんもそういう松さん俳句の魅力に心を寄せています。

余生にも明日の夢あり風光る
枇杷の花あの世がだんだん見えてくる
極楽は右折ですか蕗の薹

どこまでも人生をひょうひょうと慈しまれる松恵さんの生き方は幾多の苦難の中で培ったものでしょうか。二十八歳の時、終戦を迎えていますが、あの悲惨な戦争の犠牲者でもありました。満州から命からがら引き上げ後も二度にわたる火災、そして夫君の病気との闘いの日々。しかし、いかなる辛苦の遭おうとも夢と希望を忘れず、豆腐の製造業、新聞販店を経営の傍ら、地域婦人会などの指導者として社会貢献にも身をいとませんでした。俳句の道に入られたのはいつの時期か定かではありませんが、古希をお迎えの頃にはまるで水星のようにその名を轟かせています。俳句の道を選んだことでまた人生に大きな変化が訪れたのでしょうか。下段の俳画はまだ俳句を始めたばかり時期の作品でしょうか、芦屋に住む「末の娘」のために詠った一句。実は、ここから松さん俳句の新たなドラマ。末の娘さんによる句集「末の娘」「続末の娘」「続々末の娘」末の娘終焉の始まりです。次号のその⑧は連載でその内容をお伝えします。

佳作　十九席

曇の峰一度くるりと逆上り　香澄
炎昼の勝利を知らぬ背番号　豊國
物忘れこれもまたよし盆の月　ヨウ子
ひととせの巡る早さよ茅舎（ぼうしゃ）の忌　末子
朝涼やふんぎりつきし眉をひく　八千子
夏五輪コロナ吹っ飛ぶ金メダル　桐友
帰省の子キングサイズの登山靴　泉渓
夏夕焼（なつゆやけ）炊飯ボタンを押し忘れ　チズ子
夕焼けてピンクに染まる飛行機曇　好美
手花火の闇に隠れて児に戻る　純子

梅雨の雷場所選ばずに走りくる　重吉
蜩（ひぐらし）にうたた寝の夢打ち消さる　一主
通り雨甘さも苦さも連れてゆく　勝子
梅雨空や古き日記を積み重ね　ムツ子
食卓の何より先に心太　次江
夜明け早や涼しきうちの草を刈る　文雄
仰ぎ見るノウゼンガズラ墓参の日　ヤスコ
さざ波のまるでシンフォニー稲田かな　トシ子
蝉時雨ドアを開ければいっせいに　良子

（選者・評）東京五輪の最中での投句でしたので、競技に関する句がいくつか。これも時事俳句ですが、いつの時期か記憶を蘇らせる貴重なものになります。そういう意味でも俳句は日記みたいなものですね。▽推薦一句の小野恒己さんの句。これこそ農に生涯を捧げた叙情詩。後世に語り継がれる名句にもなり、生きた証にもなるのではないでしょうか。▽来号はいよいよ残暑から秋へ。季語も豊富です。たくさんの投稿をお待ちしています。（ごごりゅうしょう）

お詫び訂正　七月号の「ふるさとの俳人たち」の阿堂の句「みほとりに広がってゆく初明かり」は正しくは、「みほとりに広がりてゆく初明り」です。訂正してお詫びいたします。

9月号の締め切りは、8月26日（必着）でお願いいたします。選者（古後粒勝）宅にハガキ等で直接送付いただいても結構です。住所（九重町大字粟野1414番地）

発行・九重町役場企画調整課　〒879-4895　大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1　☎0973-76-2111　印刷・尾花印刷有限会社

VEGETABLE OIL INK　広報ここのえは、環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。
UD FONT by MORISAWA　広報ここのえは、UD文字を使用しています。